

平成 24 年 2 月 17 日

【照会先】健康局結核感染症課

感染症情報管理室長 中嶋 建介

課長 補佐 林 修一郎

報道関係者 各位

インフルエンザの発生状況について

平成 24 年第 6 週（平成 24 年 2 月 6 日から平成 24 年 2 月 12 日まで）分のインフルエンザの発生状況を別紙のとおり取りまとめましたので、お知らせいたします。

なお、今週は、「今冬のインフルエンザの発生動向～医療従事者向け疫学情報～」を添付しております。

インフルエンザ流行レベルマップ

《コメント》

2011/2012 年シーズンのインフルエンザの定点当たり報告数は 2011 年第 42 週以降増加が続いていたが、2012 年第 6 週の定点当たり報告数は 40.34 (患者報告数 198,910) となり、前週の報告数 (定点当たり報告数 42.62) よりも減少した。

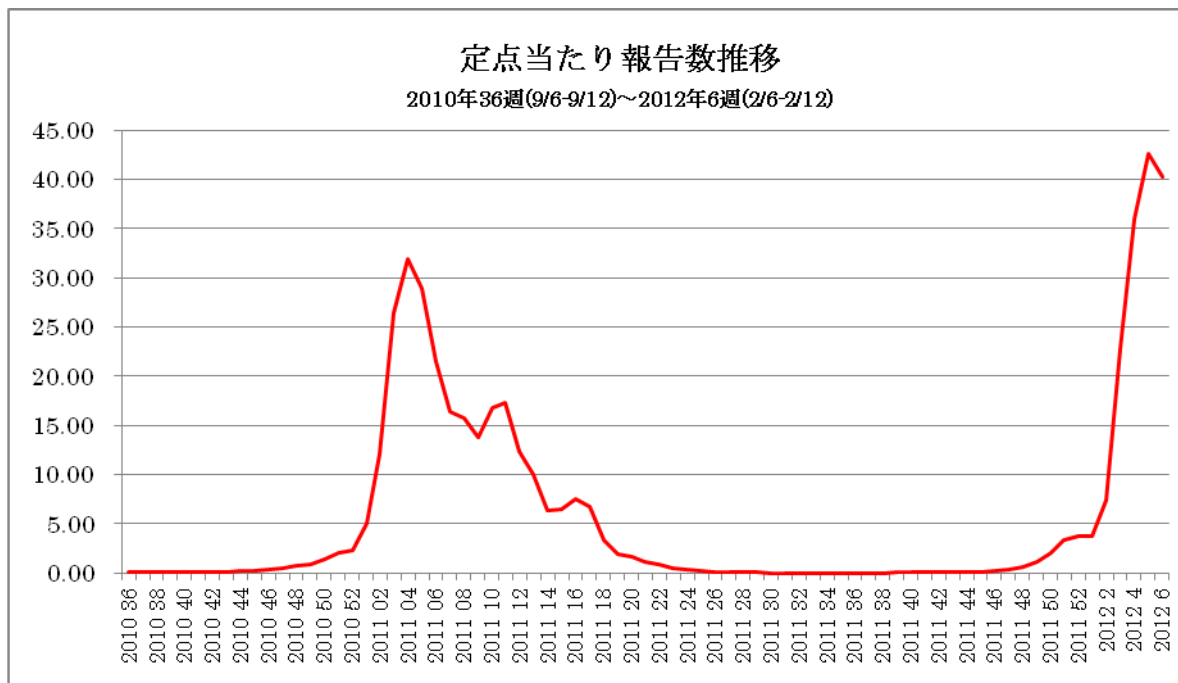
定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの 1 週間に受診した患者数を推計すると約 201 万人 (95%信頼区間 : 183 万人～219 万人) と前週の推計値 (約 211 万人) よりも減少した。年齢群別では 5～9 歳約 52 万人 (25.9%)、0～4 歳、10～14 歳共に約 31 万人 (15.4%)、30 代約 22 万人 (10.9%)、60 歳以上約 17 万人 (8.5%)、40 代約 16 万人 (8.0%) の順となっている。

都道府県別では大分県 (60.88)、石川県 (53.92)、岩手県 (52.63)、宮崎県 (52.15)、鹿児島県 (52.09)、埼玉県 (50.04)、秋田県 (50.00)、千葉県 (49.72) の順となっている。30 都府県で前週の報告数よりも減少がみられた。

全国の保健所地域で警報レベルを超えているのは 409 箇所 (46 都道府県)、注意報レベルのみを超えている保健所地域は 110 箇所 (38 都道府県) となった。

2012 年第 1～第 5 週の 5 週間では、インフルエンザウイルスの検出は AH3 亜型 (A 香港型) が最も多く、B 型、AH1pdm09 の順となっている。

○出典 (国立感染症研究所感染症情報センター インフルエンザ流行レベルマップ)



インフルエンザ定点当たり報告数・都道府県別

2012年6週(2月6日～2月12日)

区分	インフルエンザ	
	報告数	定点当たり
総 数	198,910	40.34
北海道	10,908	48.05
青森県	2,715	41.77
岩手県	3,316	52.63
宮城県	2,436	26.19
秋田県	2,750	50.00
山形県	1,791	37.31
福島県	3,540	44.25
茨城県	4,675	38.96
栃木県	2,987	39.30
群馬県	2,251	22.97
埼玉県	12,361	50.04
千葉県	10,293	49.72
東京都	18,210	43.67
神奈川県	15,879	47.40
新潟県	2,805	29.53
富山県	1,792	37.33
石川県	2,588	53.92
福井県	1,327	41.47
山梨県	1,581	39.53
長野県	3,261	37.06
岐阜県	2,500	28.74
静岡県	6,038	44.40
愛知県	6,633	34.02
三重県	1,759	24.43
滋賀県	2,116	39.92
京都府	4,011	33.43
大阪府	9,807	33.02
兵庫県	7,532	37.85
奈良県	1,757	31.95
和歌山県	1,349	26.98
鳥取県	716	24.69
島根県	1,165	30.66
岡山県	2,324	27.67
広島県	3,623	31.50
山口県	3,257	47.20
徳島県	1,702	44.79
香川県	1,846	37.67
愛媛県	1,699	27.85
高知県	1,749	36.44
福岡県	9,509	48.03
佐賀県	1,402	35.95
長崎県	1,996	28.51
熊本県	3,482	43.53
大分県	3,531	60.88
宮崎県	3,077	52.15
鹿児島県	4,792	52.09
沖縄県	2,072	35.72

インフルエンザ定点当たり報告数推移

区分	2週	3週	4週	5週	6週
	1/9-1/15	1/16-1/22	1/23-1/29	1/30-2/5	2/6-2/12
総 数	7.33	22.73	35.95	42.62	40.34
北海道	3.58	8.44	20.94	42.15	48.05
青森県	2.32	9.37	25.63	42.18	41.77
岩手県	9.75	27.13	45.52	58.98	52.63
宮城県	9.20	23.81	29.24	26.17	26.19
秋田県	3.69	7.96	21.24	35.09	50.00
山形県	5.38	25.06	39.67	44.29	37.31
福島県	9.08	24.73	39.25	46.95	44.25
茨城県	3.62	12.43	24.42	35.39	38.96
栃木県	2.97	12.24	24.97	36.22	39.30
群馬県	2.64	7.46	12.21	18.41	22.97
埼玉県	4.10	17.70	37.38	50.94	50.04
千葉県	4.70	19.30	38.06	50.84	49.72
東京都	3.22	14.70	32.23	45.20	43.67
神奈川県	2.41	13.61	34.24	48.86	47.40
新潟県	1.58	6.12	13.71	23.27	29.53
富山県	3.73	17.06	25.60	34.21	37.33
石川県	5.23	25.63	47.42	55.65	53.92
福井県	16.38	59.88	74.88	64.41	41.47
山梨県	4.43	19.23	33.28	37.83	39.53
長野県	5.07	20.69	33.16	41.42	37.06
岐阜県	23.82	49.79	49.87	36.15	28.74
静岡県	8.41	33.38	48.07	50.83	44.40
愛知県	22.63	49.03	60.48	47.38	34.02
三重県	21.92	52.17	54.58	39.78	24.43
滋賀県	11.75	27.40	35.06	38.09	39.92
京都府	7.55	26.47	38.87	41.57	33.43
大阪府	8.91	29.60	44.61	44.81	33.02
兵庫県	8.37	26.41	38.62	42.46	37.85
奈良県	8.11	24.91	41.71	41.45	31.95
和歌山県	12.84	41.48	48.32	37.22	26.98
鳥取県	6.21	18.21	24.66	29.76	24.69
島根県	2.84	10.11	15.79	21.84	30.66
岡山県	13.71	33.18	35.88	30.51	27.67
広島県	7.98	26.77	36.79	35.94	31.50
山口県	11.03	31.14	45.64	51.64	47.20
徳島県	7.63	22.74	35.18	45.58	44.79
香川県	15.86	39.65	43.16	45.82	37.67
愛媛県	15.00	35.49	43.95	37.25	27.85
高知県	19.52	59.31	66.69	54.21	36.44
福岡県	5.13	16.02	31.94	42.66	48.03
佐賀県	2.85	11.85	17.00	31.87	35.95
長崎県	5.15	14.21	20.23	24.33	28.51
熊本県	4.71	21.50	37.64	44.93	43.53
大分県	4.22	13.66	27.60	45.67	60.88
宮崎県	5.88	25.78	38.53	55.36	52.15
鹿児島県	3.71	19.22	30.78	47.74	52.09
沖縄県	12.17	20.72	28.31	32.52	35.72

1. インフルエンザ様疾患発生報告における施設数の推移

(平成23年9月～)

	報告週	報告期間	休校	学年閉鎖	学級閉鎖	施設数合計
第1報	第36週	H23.9.5 ~ H23.9.11	0	1	1	2
第2報	第37週	H23.9.12 ~ H23.9.18	0	0	0	0
第3報	第38週	H23.9.19 ~ H23.9.25	0	0	0	0
第4報	第39週	H23.9.26 ~ H23.10.2	0	1	2	3
第5報	第40週	H23.10.3 ~ H23.10.9	0	1	1	2
第6報	第41週	H23.10.10 ~ H23.10.16	0	1	3	4
第7報	第42週	H23.10.17 ~ H23.10.23	0	2	5	7
第8報	第43週	H23.10.24 ~ H23.10.30	0	3	8	11
第9報	第44週	H23.10.31 ~ H23.11.6	0	4	4	8
第10報	第45週	H23.11.7 ~ H23.11.13	0	2	6	8
第11報	第46週	H23.11.14 ~ H23.11.20	0	7	20	27
第12報	第47週	H23.11.21 ~ H23.11.27	2	7	20	29
第13報	第48週	H23.11.28 ~ H23.12.4	0	6	52	58
第14報	第49週	H23.12.5 ~ H23.12.11	6	26	118	150
第15報	第50週	H23.12.12 ~ H23.12.18	8	63	232	303
第16報	第51週	H23.12.19 ~ H23.12.25	10	63	210	283
第17報	第52週	H23.12.26 ~ H24.1.1	0	1	7	8
第18報	第1週	H24.1.2 ~ H24.1.8	0	0	1	1
第19報	第2週	H24.1.9 ~ H24.1.15	3	35	108	146
第20報	第3週	H24.1.16 ~ H24.1.22	82	733	2,479	3,294
第21報	第4週	H24.1.23 ~ H24.1.29	197	1,697	5,325	7,219
第22報	第5週	H24.1.30 ~ H24.2.5	254	1,947	6,377	8,578
第23報	第6週	H24.2.6 ~ H24.2.12	248	1,928	5,914	8,090
第24報	第7週	H24.2.13 ~ H24.2.19				
第25報	第8週	H24.2.20 ~ H24.2.26				
第26報	第9週	H24.2.27 ~ H24.3.4				
第27報	第10週	H24.3.5 ~ H24.3.11				
第28報	第11週	H24.3.12 ~ H24.3.18				
第29報	第12週	H24.3.19 ~ H24.3.25				
第30報	第13週	H24.3.26 ~ H24.4.1				

2. 休業施設数施設別内訳(第23報)

合計：8,090施設

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
施設数	141	1,154	5,409	1,209	116	61

インフルエンザによる入院患者の概況(6週)

平成24年2月14日時点

(1)入院患者の届出数

期間	1月9日 ~1月15日	1月16日 ~1月22日	1月23日 ~1月29日	1月30日 ~2月5日	2月6日 ~2月12日	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計※1
入院患者数※1	414人	708人	1005人	1298人	1410人	13人	27人	63人	385人	2364人	2708人		5560人
年齢別内訳	1歳未満	23人	45人	77人	78人	96人	1人	1人	5人	23人	162人	174人	366人
	1~4歳	77人	130人	199人	203人	258人	0人	8人	20人	99人	448人	461人	1036人
	5~9歳	45人	115人	170人	197人	226人	3人	9人	8人	65人	348人	423人	856人
	10~14歳	10人	28人	58人	68人	61人	1人	1人	4人	17人	97人	129人	249人
	15~19歳	9人	7人	12人	23人	11人	2人	0人	0人	5人	31人	34人	72人
	20~29歳	6人	18人	17人	16人	25人	0人	0人	3人	6人	46人	41人	96人
	30~39歳	11人	18人	24人	28人	28人	2人	1人	0人	12人	61人	56人	132人
	40~49歳	9人	14人	11人	22人	27人	0人	2人	0人	4人	39人	49人	94人
	50~59歳	17人	23人	20人	39人	40人	0人	0人	1人	8人	73人	79人	161人
	60~69歳	24人	41人	55人	100人	102人	0人	0人	2人	14人	142人	202人	360人
	70~79歳	62人	87人	138人	200人	194人	2人	5人	9人	53人	317人	394人	780人
	80歳以上	121人	182人	224人	324人	342人	2人	0人	11人	79人	600人	666人	1358人

(2)入院時の状況

期間	1月9日 ~1月15日	1月16日 ~1月22日	1月23日 ~1月29日	1月30日 ~2月5日	2月6日 ~2月12日	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計※2
ICU入室	9人	20人	23人	35人	42人	1人	2人	4人	11人	61人	77人		156人
人工呼吸器の利用	9人	34人	17人	24人	26人	1人	2人	4人	9人	45人	50人		111人
頭部CT検査、頭部MRI検査、 脳波検査のいずれかの実施 (予定含む)	51人	78人	119人	157人	156人	3人	5人	6人	44人	279人	313人		650人
いずれにも該当せず	356人	611人	866人	1108人	1216人	10人	20人	54人	328人	2032人	2324人		4768人
計※2 (一部重複あり)	425人	743人	1025人	1324人	1440人	15人	29人	68人	392人	2417人	2764人		5685人

(3)入院時の状況と年齢別内訳の累計

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計※2
ICU入室	6人	16人	24人	6人	2人	1人	3人	7人	6人	15人	24人	46人	156人
人工呼吸器の利用	5人	10人	10人	4人	4人	1人	3人	5人	3人	8人	21人	37人	111人
頭部CT検査、頭部MRI検査、 脳波検査のいずれかの実施 (予定含む)	16人	206人	150人	34人	7人	6人	9人	7人	11人	19人	67人	118人	650人
いずれにも該当せず	343人	824人	696人	212人	61人	89人	119人	82人	146人	325人	687人	1184人	4768人
計※2 (一部重複あり)	370人	1056人	880人	256人	74人	97人	134人	101人	166人	367人	799人	1385人	5685人

※1 基幹定点医療機関(約500カ所)からのインフルエンザによる入院患者の届出数

※2 平成23年9月5日以降に入院した各患者の累計数(入院日を登録)

今冬のインフルエンザの発生動向

～医療従事者向け疫学情報～

Ver.1 in 2012

厚生労働省（健康局結核感染症課/国立感染症研究所）

今冬のインフルエンザの発生動向について、主に医療従事者に活用いただくことを目的として、全国の医療機関からの報告等をもとに情報をまとめました。臨床における参考資料としていただければ幸いです。本報告はあくまで現時点の知見をまとめたものですので、今後も最新の情報に注意し続けていただきますよう、お願いいたします。

※2009年の新型インフルエンザ(A/H1N1)発生時より、厚生労働省はインフルエンザによる重症者の動向を把握するためにすべての医療機関にお願いして重症サーベイランスを実施してきましたが、2011年9月5日からは「入院サーベイランス」として新たに実施しています。入院サーベイランスでは、基幹定点医療機関からの報告により、インフルエンザによる入院患者の数及び臨床情報を収集することで、季節性インフルエンザによる入院患者の発生動向や重症化の傾向を把握しています。

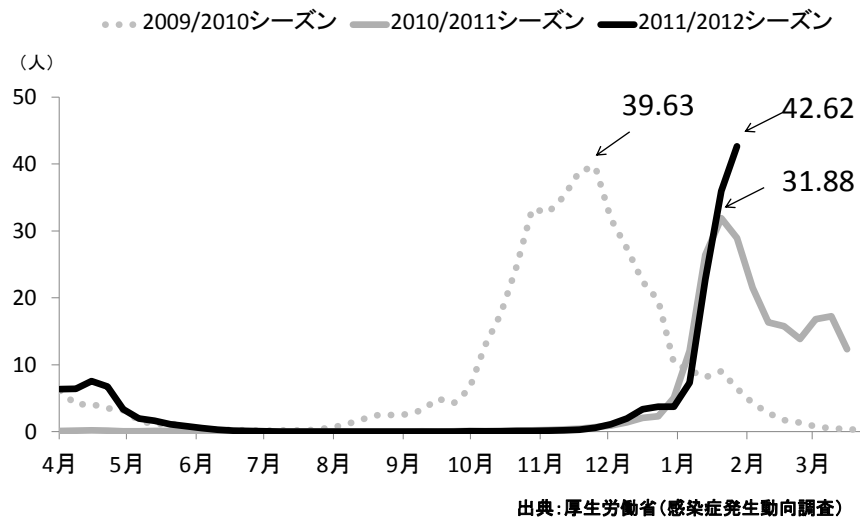
※本文中における各シーズンのデータは、原則として次の期間のものです。

- 今シーズン（2011/2012シーズン）：平成23年9月5日～平成24年2月5日。
- 前シーズン（2010/2011シーズン）：平成22年9月6日～平成23年3月27日。
- 前々シーズン（2009/2010シーズン）：平成21年8月3日～平成22年3月23日。

今後とも、各医療機関におかれましては、自治体および厚生労働省が実施するサーベイランスへのご協力をよろしくお願いいたします。

(1) インフルエンザの流行状況

図1 定点当たり受診者数の推移



インフルエンザ様症状¹で、シーズン中に定点医療機関を受診した方の推移を図1に示します。

※比較のため、前々シーズン、前シーズンの報告数についても示します。

- 今シーズンは、2011年第49週(12月5日～12月11日)の感染症発生動向調査で、全国のインフルエンザの定点当たり報告数²が1.11となり、流行入りが確認された。
- その後、学校等の始業開始時期にあたる1月上旬以降急速に流行が拡大し、2012年第5週(1月30日～2月5日)における定点当たり報告数は42.62となり、1週間あたりの定点の値としては、インフルエンザの発生動向調査が始まった2000年以降の12シーズンの中では、2005/2006シーズンに次ぎ2番目の高値となった。

※定点当たり報告数の最高値は、2006年第9週(2006年2月27日～3月5日)の、50.07であった。

※前シーズンの流行のピークは、第4週(2011年1月24日～1月30日)で、定点当たり報告数は、31.88であった。

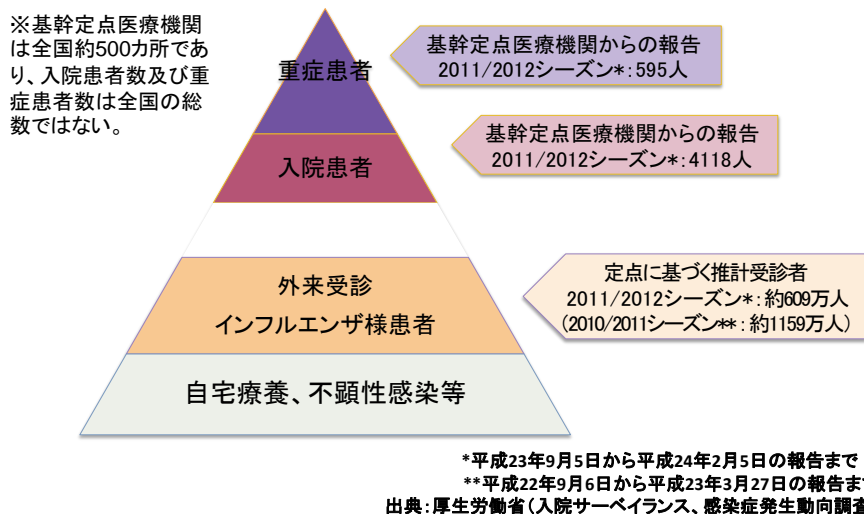
¹届出基準に示している臨床症状には、1)突然の発症、2)高熱、3)上気道炎症状、4)全身倦怠感等の全身症状がある。<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou11/01-05-28.html>

²例年、この数値が1を超えるとインフルエンザの流行が全国的に拡大することから、流行入りとしている。

(2) インフルエンザの重症化の状況

図2 インフルエンザの重症度
(2011/2012シーズン*)

(2月7日現在)



サーベイランス情報等から推察した重症化の状況について、図2に示します。

- 感染症発生動向調査によると、インフルエンザによる今シーズンの累計推計受診者数の全国の総数は約609万人と推計される。

※インフルエンザ様症状を呈して医療機関を受診したインフルエンザ患者の推計患者数であり、医療機関を受診せずに自宅療養をしている方や不顕性感染の方を含んでいないことに留意が必要である。

- 入院患者については、基幹定点医療機関から4118人が報告されている。
- 重症患者については、基幹定点医療機関から595人が報告されている。

※2011年9月から開始された入院サーベイランスでは重症患者の定義を、入院時点において、1)集中治療室に入室された方、2)人工呼吸器を利用された方、3)頭部CT検査・頭部MRI検査・脳波検査(以下「頭部検査」という。)を実施(予定を含む。)された方としている。このため重症患者に区分していない入院患者の中にも、重症患者が存在し得ることに留意が必要である。

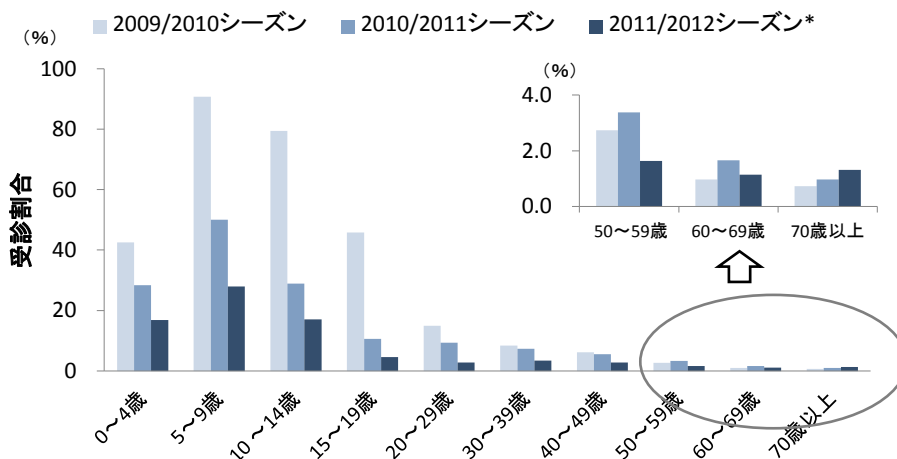
※なお、2009年度以降発行している「新型インフルエンザの発生動向～医療従事者向け疫学情報～」及び「今冬のインフルエンザの発生動向～医療従事者向け疫学情報～」においては、重症患者の定義を、入院中に一時期でも、1)集中治療室に入室、2)人工呼吸器を装着、3)急性脳症に罹患された方としており(急性脳症の診断については、報告医師に委ねている。)、今シーズンとは重症患者の定義が異なることに留意が必要である。

※基幹定点医療機関とは、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって内科および外科を標榜する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)を2次医療圏毎に1カ所以上、基幹定点として指定している。全国で約500カ所ある。入院患者数及び重症患者数は全国の総数ではない(以下同じ)。

※死亡患者数については、人口動態調査により今後集計される予定である(月単位での集計となっており、その公表は当該月の概ね4カ月後)。

(3) 年齢別の発生動向

図3 人口に占める推計受診者数の割合
(年齢階級別)



*平成23年9月5日から平成24年2月5日の報告まで

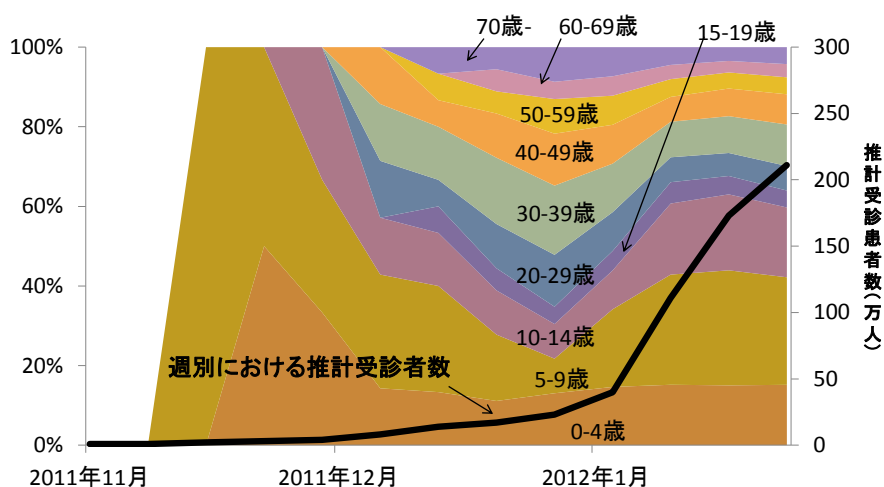
出典:厚生労働省(感染症発生動向調査)

インフルエンザ様症状で、シーズン中に医療機関を受診した方の人口に占める割合を年齢階級別に図3に示します。

- 今シーズン(2月5日まで)の15歳未満の小児における受診割合は他の年代よりも高く、これは前シーズン、前々シーズンと同様の傾向となっている。
- 今シーズン(2月5日まで)の0歳以上70歳未満の方の受診割合は前シーズンの受診割合を下回っている。
- 今シーズン(2月5日まで)の70歳以上の高齢者の受診割合は前シーズン及び前々シーズンを通じた受診割合を上回っている。(図4~6参照)

※この分析では、推計受診者数を年齢階級別に細分化したものをを用いているので、誤差が大きくなるものと考えられる。そのため、これらの情報は、あくまで臨床における参考程度としていただきたい。

図4 推計受診者数の年齢階級別割合の推移
(2011/2012シーズン*) (2月7日現在)



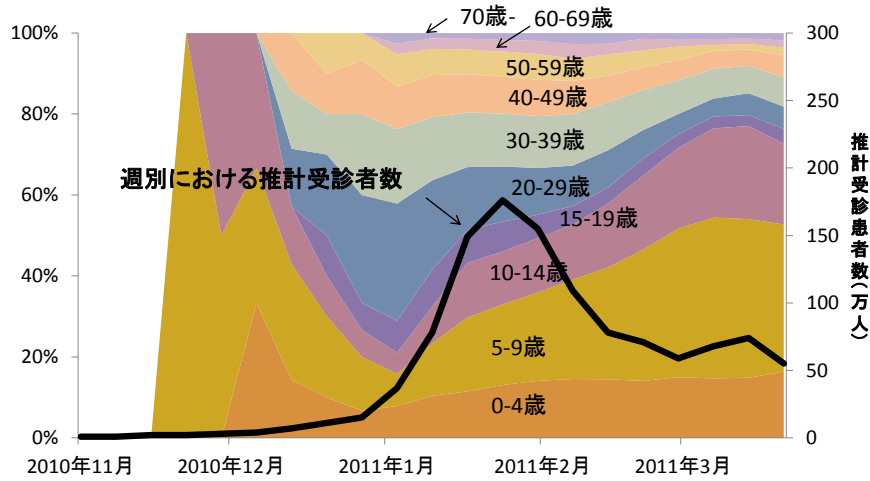
*平成23年9月5日から平成24年2月5日の報告まで
出典:厚生労働省(感染症発生動向調査)

今シーズンにおける推計受診者数の年齢階級別割合の推移を図4に示します。

- 11月中旬頃から10歳未満の小児を中心に患者がみられるようになった。
- 12月上旬より推計受診者数が微増し、同時期に中高年層の患者割合も微増した。
- 1月上・中旬より推計受診者数が急増し、同時期に5歳から15歳未満の小児を中心とした患者割合も急増した。
- 就学児童・生徒の年代にあたる5歳から15歳未満の小児が占める割合は、冬期休暇にあたる12月末に一旦減少したが、年明けの始業開始にあたる1月上旬に再び増加するなど例年どおり大きく変化した。
- 前シーズンと比較すると、今シーズンは、60歳以上の方の占める割合が若干多い。

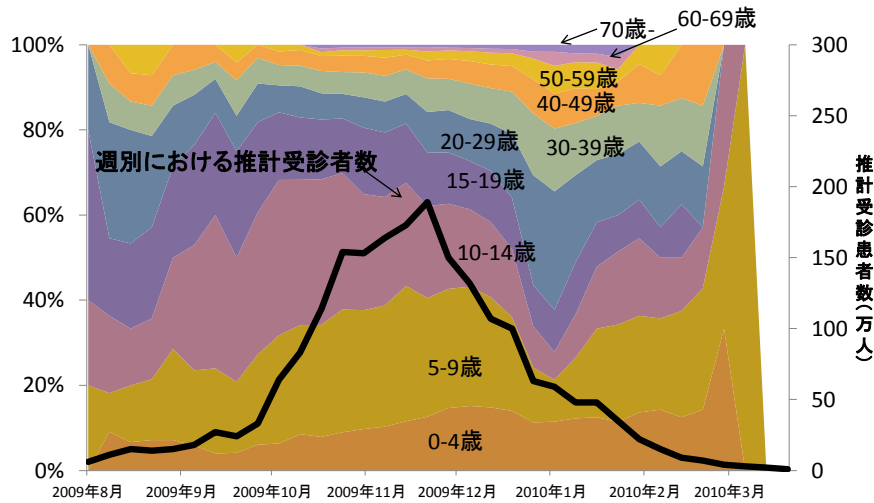
比較のため、前シーズン、前々シーズンにおける推計受診者数の年齢階級別割合の推移を図5、図6に示します。

**図5 推計受診者数の年齢階級別割合の推移
(2010/2011シーズン)**



出典：厚生労働省(感染症発生動向調査)

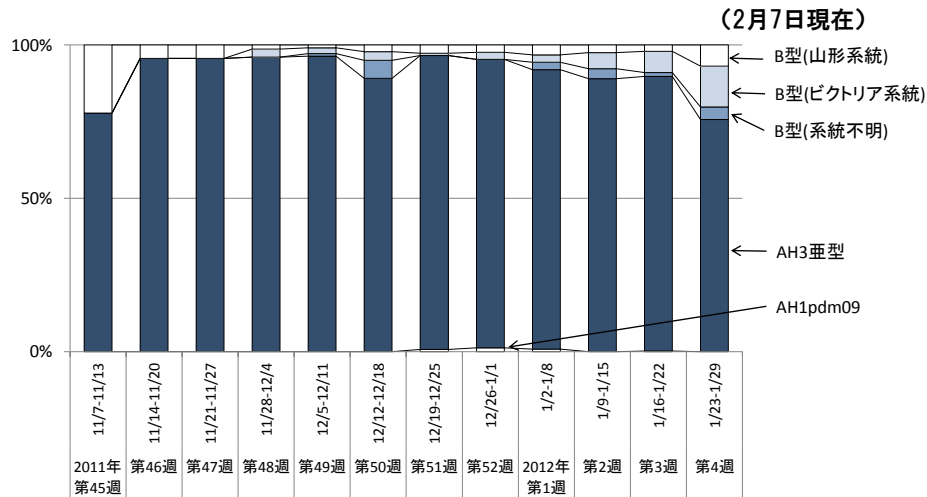
**図6 推計受診者数の年齢階級別割合の推移
(2009/2010シーズン)**



出典：厚生労働省(感染症発生動向調査)

(4) インフルエンザウイルスの亜型の動向

図7 インフルエンザウイルスの亜型の動向
(2011/2012シーズン)



出典：厚生労働省(感染症発生動向調査)

感染症発生動向調査で得られたインフルエンザウイルスの亜型の動向について、図 7 に示す。

※図 7 のデータは随時集計であるため、直近のデータについては十分に反映されていない可能性があることに留意が必要。

- 検出されているインフルエンザウイルスは、AH1pdm09、AH3 亜型、B 型(ビクトリア系統)、B 型(山形系統)、B 型(系統不明) である。
- 主流となっているのは、一貫して AH3 亜型 である。
- AH1pdm09 については ごく少数の検出 に留まっている。
- B 型 については、ビクトリア系統と山形系統 が検出されている。

(5) 入院サーベイランスに基づく入院患者・重症患者の分析

ア. 入院患者の性・年齢

表1 入院患者の性・年齢
(2011/2012シーズン*)

報告数	4118例
性別(男性:女性)	2222例:1896例
年齢範囲	0歳-106歳 (中央値 35.5歳・平均41.6歳)

年齢階級	%	N
1歳未満	6.5	268
1~4歳	18.8	774
5~9歳	15.3	628
10~14歳	4.5	185
15~19歳	1.5	61
20~29歳	1.7	71
30~39歳	2.5	103
40~49歳	1.6	67
50~59歳	2.9	121
60~69歳	6.2	255
70~79歳	14.0	578
80歳以上	24.5	1007

*平成23年9月5日から平成24年2月5日の報告まで
出典:厚生労働省(入院サーベイランス)

入院サーベイランスによる入院患者の性・年齢について表1に示します。

※入院サーベイランスでは、基幹定点医療機関からの報告により、インフルエンザによる入院患者の発生状況や重症化の傾向を把握しています。

※基幹定点医療機関については、P3参照。

※入院サーベイランスは本年度が初年度のため、前シーズンとの比較はできません。

- 入院患者の性別については、男性 2222 例、女性 1896 例であり、男性が若干多い。
- 入院患者の年齢については、平均 41.6 歳、中央値 35.5 歳となっている。
- 入院患者うち、10 歳未満の小児が 40.6%、70 歳以上の方が 38.5%と高い割合を占めている。

イ. 重症患者の性・年齢等

表2 重症患者の性・年齢等
(2011/2012シーズン*)

	全体		集中治療室		人工呼吸器		頭部検査	
報告数	595例		112例		84例		493例	
性別(男性:女性)	344例:251例		60例:52例		43例:41例		293例:200例	
年齢範囲	0歳-98歳 (中央値9.0歳・平均34.5歳)		0歳-97歳 (中央値61.5歳・平均48.0歳)		0歳-96歳 (中央値65.0歳・平均50.1歳)		0歳-98歳 (中央値7.0歳・平均29.1歳)	

年齢階級	全体		集中治療室		人工呼吸器		頭部検査	
	%	N	%	N	%	N	%	N
1歳未満	2.5	15	2.7	3	4.8	4	2.4	12
1～4歳	27.7	165	11.6	13	10.7	9	32.3	159
5～9歳	21.0	125	16.1	18	9.5	8	23.9	118
10～14歳	4.5	27	3.6	4	4.8	4	5.3	26
15～19歳	1.7	10	1.8	2	3.6	3	1.4	7
20～29歳	0.8	5	0.9	1	1.2	1	0.8	4
30～39歳	1.8	11	2.7	3	3.6	3	1.4	7
40～49歳	1.7	10	6.3	7	6.0	5	1.0	5
50～59歳	1.7	10	2.7	3	1.2	1	1.6	8
60～69歳	4.2	25	9.8	11	8.3	7	2.6	13
70～79歳	12.3	73	16.1	18	17.9	15	11.0	54
80歳以上	20.0	119	25.9	29	28.6	24	16.2	80

*平成23年9月5日から平成24年2月5日の報告まで

出典:厚生労働省(入院サーベイランス)

入院サーベイランスによる重症患者の性・年齢等について表2に示します。

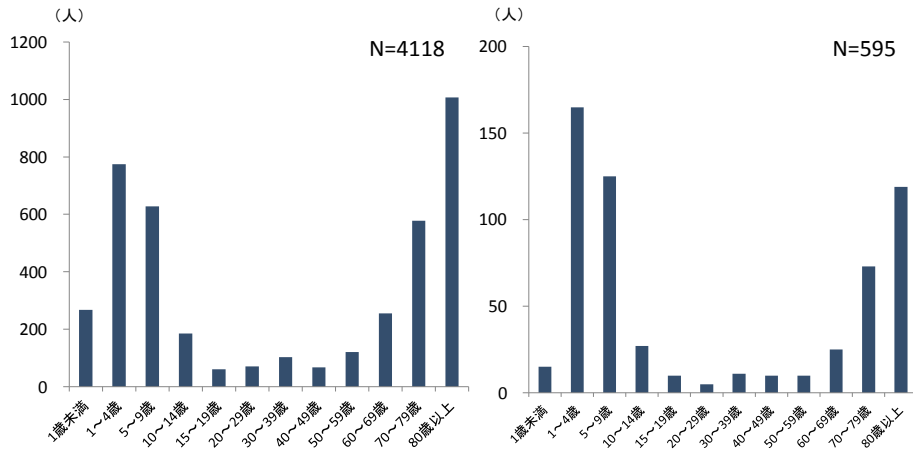
※基幹定点医療機関については、P3参照。

※重症患者の定義については、P3参照。

- 重症患者の性別については、男性 344 例、女性 251 例であり、男性が若干多い。
- 重症患者の年齢については、平均年齢 34.5 歳、中央値 9.0 歳となっている。
- 重症患者のうち、10 歳未満の小児が 51.2%、70 歳以上の高齢者が 32.3%と高い割合を占めている。
- 頭部検査を実施されている重症患者の多くは 1 歳以上 10 歳未満の小児であり、全体の 56.2%を占めている。

ウ. 入院患者数と重症患者数の年齢階級別の推移

図8 入院患者数(年齢階級別) (2011/2012シーズン*) 図9 重症患者数(年齢階級別) (2011/2012シーズン*)



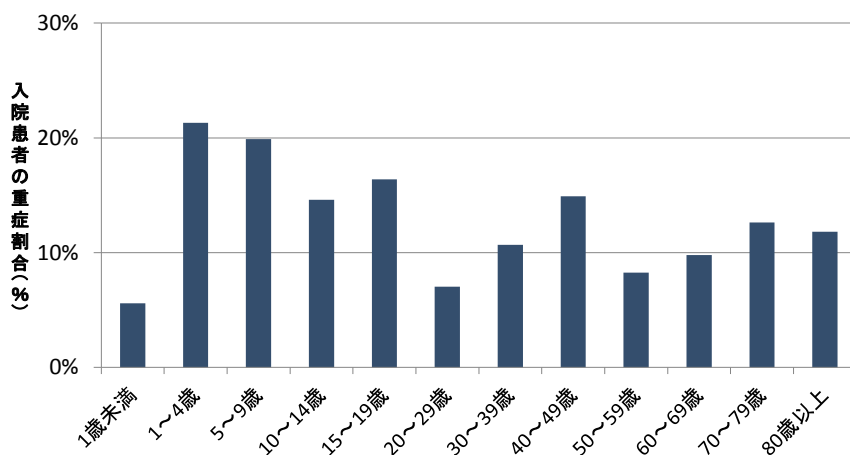
*平成23年9月5日から平成24年2月5日の報告まで
出典:厚生労働省(入院サーベイランス)

入院サーベイランスによる入院患者の年齢階級別の人数と、重症患者の年齢階級別の人数を、図8と図9にそれぞれ示します。
※重症患者の定義については、P3参照。

- 入院患者については、10歳未満の小児及び70歳以上の高齢者の割合が高い。
- 重症患者については、1歳以上10歳未満の小児及び70歳以上の高齢者の割合が高い。

エ. 入院患者の重症割合（年齢階級別）

図10 入院患者の重症割合(年齢階級別)
(2011/2012シーズン*)



*平成23年9月5日から平成24年2月5日の報告まで
出典:厚生労働省(入院サーベイランス)

入院患者に占める重症患者の割合について、年齢階級別に図10に示します。

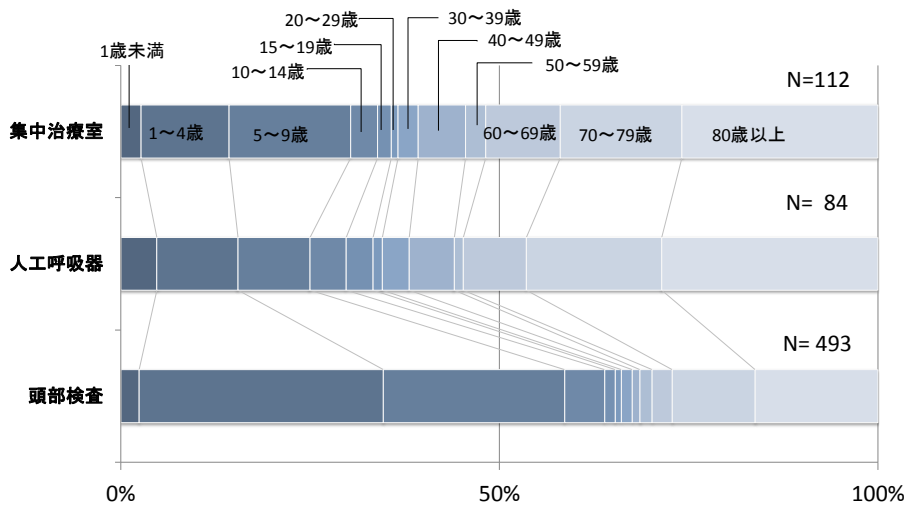
※基幹定点医療機関については、P3参照。

※重症患者の定義については、P3参照。

- 1歳以上10歳未満の小児においては、他の年代に比して、入院患者の重症割合が若干高い。

オ. 重症患者の年齢階級別の構成割合（重症患者の定義別）

図11 重症患者の年齢階級別の構成割合(重症患者の定義別)
(2011/2012シーズン*)



*平成23年9月5日から平成24年2月5日の報告まで
出典:厚生労働省(入院サーベイランス)

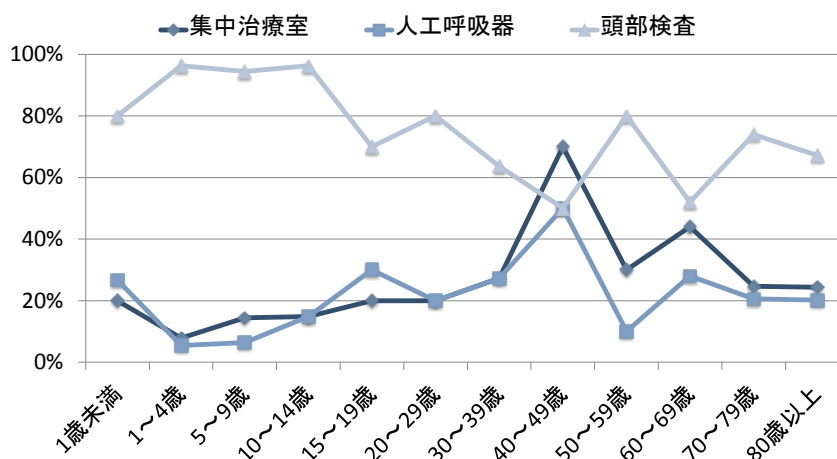
重症患者の定義、1)集中治療室に入室された方、2)人工呼吸器を利用された方、3)頭部検査を実施（予定を含む。）された方のそれぞれについて、年齢階級別の構成割合を、図11に示します。

※重症患者の定義については、P3参照。

- 全体的に、1歳以上10歳未満の小児及び70歳以上の高齢者の割合が高い。
- 頭部検査については、1歳以上10歳未満の小児の割合が非常に高い。

カ. 年齢階級別にみた重症患者の定義別の構成割合

図12 年齢階級別にみた重症患者の定義別の構成割合
(2011/2012シーズン*)



*平成23年9月5日から平成24年2月5日の報告まで
出典:厚生労働省(入院サーベイランス)

重症患者の定義、1)集中治療室に入室された方、2)人工呼吸器を利用された方、3)頭部検査を実施(予定を含む。)された方の構成割合について、年齢階級別に図12に示します。

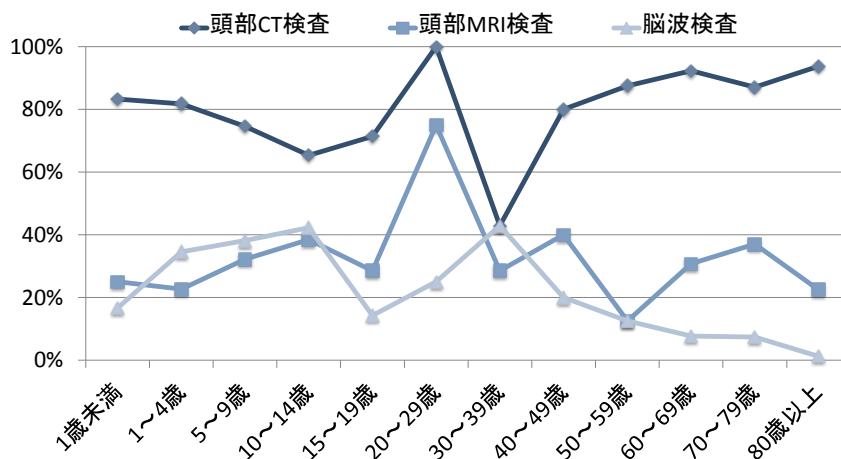
※重症患者の定義については、P3参照。

- 全体的に、頭部検査の割合が高い。
- 集中治療室については、60歳以上70歳未満の方の割合が若干高い。
- 人工呼吸器については、1歳未満の乳児及び60歳以上70歳未満の方の割合が若干高い。
- 頭部検査については、1歳以上15歳未満の小児の割合が若干高い。

※15歳以上60歳未満の方については、症例数が少ないため、データの解釈に留意が必要である。

キ. 年齢階級別にみた頭部検査利用重症患者における検査別構成割合

図13 年齢階級別にみた頭部検査利用重症患者における検査別構成割合(2011/2012シーズン)



*平成23年9月5日から平成24年2月5日の報告まで
出典:厚生労働省(入院サーベイランス)

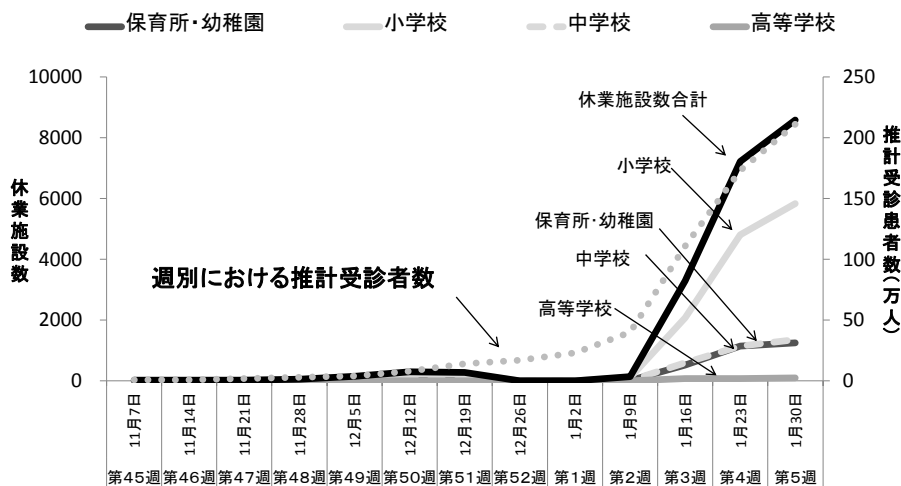
頭部検査の報告のあった重症患者における、1)頭部CT検査、2)頭部MRI検査、3)脳波検査の構成割合について、年齢階級別に図13に示します。

- 全体的に、頭部CT検査の割合が高い。
- 脳波検査については、1歳以上15歳未満の小児の割合が高い。

※15歳以上60歳未満の方については、症例数が少ないため、データの解釈に留意が必要である。

(6) 学校サーベイランスの分析

図14 施設別休業数推移
(2011/2012シーズン*)



*平成23年11月7日から平成24年2月5日の報告まで
出典:厚生労働省(学校サーベイランス、感染症発生動向調査)

学校サーベイランスによる施設別休業数の推移を図14に示します。

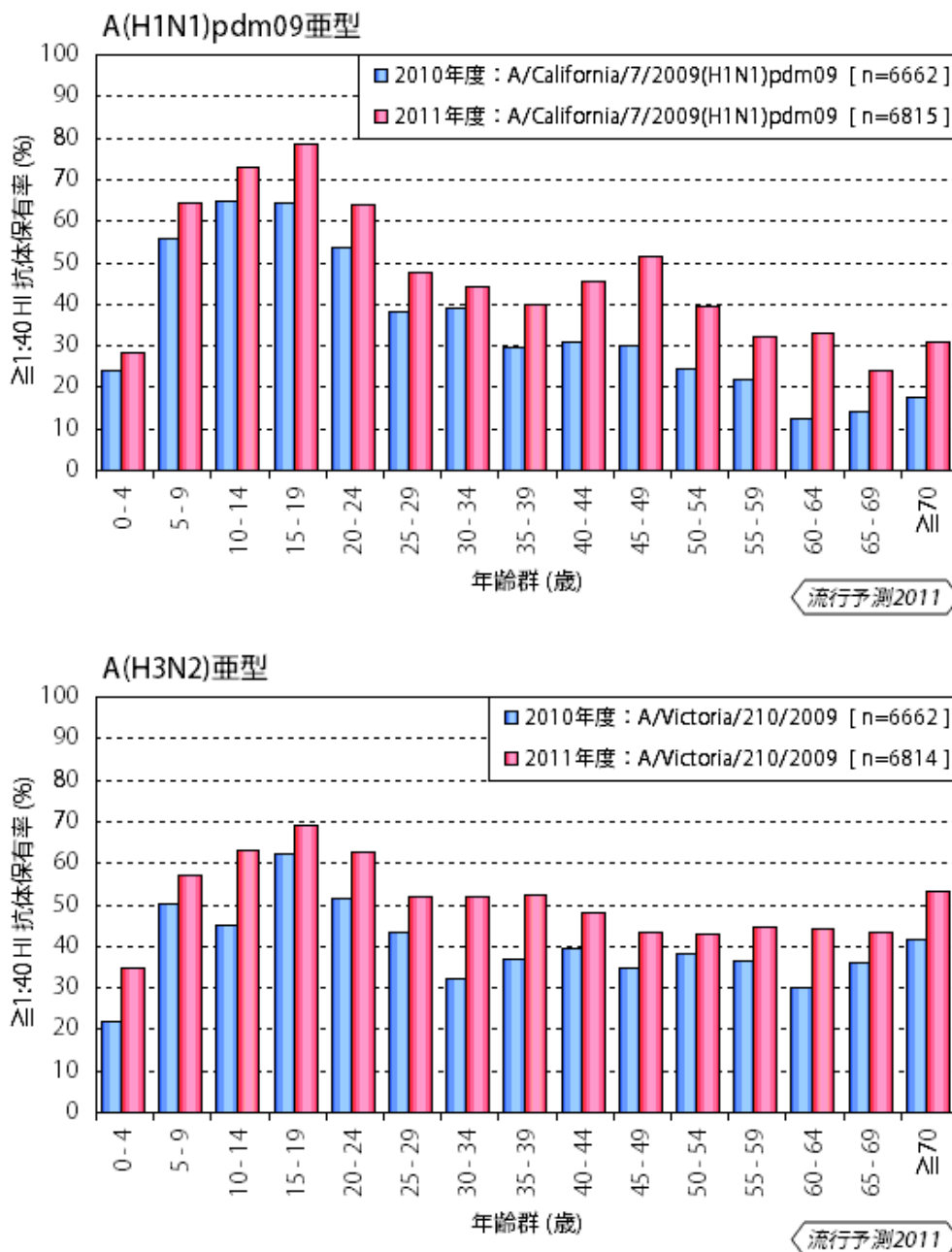
※学校サーベイランスは、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校等から、インフルエンザ様症状の患者による臨時休業(学級閉鎖、学年閉鎖、休校)の状況及び欠席者数の報告を一週間(月曜日から日曜日)ごとに報告を受け、その結果を集計・分析するものです。

- 休業数は、学校等の始業開始時期にあたる1月上旬以降、急増しており、推計受診者数の推移と相関している。

インフルエンザ感受性調査による年齢階級別の抗体保有状況を図 15、図 16³に示します。

※インフルエンザ感受性調査は、毎年7月から9月の時期に各年代ごとに採血し、季節性インフルエンザに対する抗体価を調査するものです。

図15 A型インフルエンザに対する年齢群別HI抗体保有状況
 [前年度調査との比較, HI抗体価1:40以上] (2011年12月27日現在)



³出典) 国立感染症研究所
http://idsc.nih.go.jp/yosoku/Flu/2011Flu/Flu11_3.html

図16 B型インフルエンザに対する年齢群別HI抗体保有状況
 [前年度調査との比較, HI抗体価1:40以上] (2011年12月27日現在)

